

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200890		
法人名	株式会社 グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホーム めぐみの丘Ⅱ		
所在地	千葉県千葉市花見川区三角町178-25		
自己評価作成日	平成22年12月3日	評価結果市町村受理日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人への支援はもちろん、そのご家族への支援にも力を入れている。経済的に困窮している認知症高齢者の受け入れを率先して行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、利用者一人ひとりの尊厳が保たれ、その人らしい生活が送れるように全職員が一丸となり支援している。今年度においては、行事計画に基づき、納涼祭や運動会、クリスマス会のほか、外食会の実施等、昨年度に増して様々な行事を実施し、利用者の生活の幅を広げている。地域との交流においても、ホームでの避難訓練実施の際に参加を呼び掛けるほか、日常的なかかわりの中でもあいさつを交わし交流を深めている。職員も自ら率先して外部の研修へ参加をし、知識や技術向上に努めるほか、介護福祉士の合格者も増えるなど、職員のスキルも年々向上している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼を行う事務所に理念を掲示し各職員が確認している。	ホームでは、「個人の尊厳が保たれ、その人らしい生活」を理念として掲げ、ホーム内への掲示のほか、新人職員には入社時に理念を説明し、職員間において理念が浸透するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り老人会などに参加している。	今年度においては、自治会館の改修があり、地域行事への参加が困難であったが、ホームで開催した避難訓練には、地域住民にも声をかけ、協力を依頼するほか、ホーム周辺の散歩の際に、住民とあいさつを交わすなど、住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での現状を説明し、地域住民の方や民生委員からの意見を聞き、取り入れていくよう努力している。	運営推進会議では、ホームの現状のほか、参加者との意見交換に努め、サービス向上につながるよう努めている。	今後に向けては、開催計画を事前に立てるなど、定期的な開催に向け取り組み、地域や家族、関係機関との定期的な意見交換が実施されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員に参加していただき、サービスの質を向上させていくことに取り組んでいる。千葉市高齢施設課への質問などメールや電話にて適宜行っている。	市の担当課との連携に関しては、指定更新時や運営上の疑問点等が発生した際に連絡を取るなど、サービスの質の向上に向け、ホーム側からも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習会を独自に開いている。施錠に関してはホーム前の道路が交通量が多く、危険防止のためやむなく施錠している。	身体拘束の廃止に向け、市の集団指導で指導された内容をホーム内の会議の場で職員に周知を図り理解を深めている。利用者の安全確保のために玄関を施錠しているが、施錠による弊害も職員に周知し、身体拘束につながらないよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する資料等、職員が閲覧できるようにしている。		

グループホームめぐみの丘Ⅱ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に取り組んでいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、ひとつひとつていねいに説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望など、話す機会を設けて対処している。介護支援専門員による家族との面談の機会を設け、話を聞き反映させている。	内外の苦情相談窓口に関しては、重要事項説明書に明記している。また、家族からの意見に関しては、面会時に確認するほか、ケアプランの内容を説明する際にも意向や要望を聞き取り、日々の支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議を開き、意見等ある場合は職員から聞き反映している。	職員からの意見に関しては、月に一度の全体会議の場で意見交換を行い、職員が日頃感じている事や疑問点などを収集し、日々のサービスに反映できるよう努めている。	職員の意見から、ホーム内での研修会を望む声も出ており、今後要望に応じた研修が定期的にホーム内で実施されることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況は管理者より代表者へ報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの実際と力量は管理者より代表者へ報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に取り組んでいない		

グループホームめぐみの丘Ⅱ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入居初期時は、本人の話を傾聴し、本人の思いが職員へ伝わるように時間をとっている、		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期時は、家族に出来る限り面会に来て生活ぶりを見ていただき、家族の要望等を聞き反映していくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況を本人と家族から聞き、より良いサービスを提案し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には情報交換したりイベントに参加していただき、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に生活歴などの情報収集に力を入れ、話題を提供している。	入居後においてもこれまでの関係が途切れないように、友人の面会の受け入れや、買い物の帰りに、以前勤めていた職場に立ち寄るなど、関係継続の支援を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を考慮し、関わり合い支え合いにはスタッフが間に入るようにしている。		

グループホームめぐみの丘Ⅱ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談等にも応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人と家族の意向を聞いて作成している。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、意向や要望、課題を抽出し、職員間で抽出した課題を分析し、ケアプランへと反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ入居前の生活に近い生活が送れるよう情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りにて一人ひとりの一日の心身の状態を職員が把握できるよう努めている。職員全員に把握してもらえるように職員連絡ノートに記録し、閲覧および確認サインをしてもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフから情報をもらい、本人や家族からの意見なども面会時や面談等で話を聞き、介護計画にとり入れている。	ケアプランには短期、長期の目標を掲げ、利用者個別に作成される。作成に関しては本人、家族、職員の意見を踏まえ作成される。ケアプランの見直しは6カ月ごと実施される。	ケアプラン作成時のアセスメントにおいても、全利用者定期的に実施し、アセスメントが抜けがないよう、仕組みの強化が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護品質計画とケース記録により情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で対応困難な時は他施設を家族と検討し支援している。		

グループホームめぐみの丘Ⅱ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方に時々来所していただき、協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外にも家族の要望に応じ、適切な医療を受けられるように努めている。	利用者が適切な医療を受けられるように、月に一度提携先病院の往診や訪問歯科診療が受診できる体制である。また、提携先医療機関以外にもご家族の要望に応じ、適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に特変がある場合、介護職員は看護師に連絡している。24時間緊急時にも対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを作成し情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてできることできないことを見極め、できることは職員全員が理解し共有し、できないことに関しては、協力医療機関に支援を求めている。	重度化や終末期に向けた方針の共有については、「看取り介護についての同意書」をご家族と交わし、ホームとしての方針を早い段階からお伝えしている。重度化した場合には家族、医師、職員と情報を共有し取り組む体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個人に起こりうる急変事項および対応は職員に口頭や文書で伝えてあるが初期対応訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回行う。自主訓練と消防署の指導の下、総合訓練を行う。	防災訓練は今年度2回実施されている。訓練では、自主訓練のほか、消防署の指導の下、総合訓練も実施されている。近隣の方にも、参加を呼び掛け、地域の協力体制が築けるよう努めている。	

グループホームめぐみの丘Ⅱ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の個性を大事にし、その人に合った対応をしている。	日々の支援では、利用者の意思を尊重し、利用者の尊厳を損ねないよう声かけ等についても不適切にならないよう取り組まれている。また、利用者の居室への出入りについても、一声かけてからの入室を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向を聞き、自分で決められるよう言葉がけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況に合わせて、できるだけ本人の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人の好みの服装を着ていただき、理美容に関しても定期的に訪問理容を利用し、好みの髪型にしていだいでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を手伝える人には手伝っていたり、できない人にも味見などで食事作りに参加していただいている。片付けもできる方にすすんでやっていただいている。	食事に関する一連の作業では、準備や後片付け、味見など、利用者も主体的に取り組めるよう支援している。また、外食やホーム内での野菜の栽培を通じ、食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量・水分量を記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせケアを行っている。口腔ケアチェック表にてケアの実施を確実に行うようにしている。		

グループホームめぐみの丘Ⅱ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄のパターンを把握しそれに沿ってトイレ誘導することで、できる限り自立した排泄を行えるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンに関しては、「排泄チェック表」に記録し、一人ひとりの排泄状況を確認している。排泄支援はトイレでの排泄を基本とし、自立に向けた支援を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食材と調理方法も考えながら調理を心がけている。。水分量はチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯が決まっており、入浴に関しては個々に沿った支援ができていない。	入浴に関しては、曜日や時間等を定め入浴しているが、本人の希望も尊重し、希望に応じて入浴できるよう支援している。入浴拒否がある場合には、無理強いせず、本人のペースを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっているが、テレビ等見ている方には自由に見ていただいている(深夜は除く)。起床時間より早く起きてこられる方には希望に応じて朝食も召し上がっていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬している薬の説明書をファイルにし、職員が閲覧し確認している。服用に間違いのないように一人ひとりのケースに服薬時間別に分けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については実行できていない。嗜好品については酒・タバコはホーム内ではお断りしている。コーヒーなどは飲んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などには時々出ている。ご家族との外食、外泊は自由にできる。	戸外での活動については、外食会、遠足など実施されている。昨年度同様、法人内の宿泊施設に出かけるなど、利用者の要望に沿って柔軟に対応されている。ホーム周辺の散歩や買い物等、利用者の状態を考慮しながら、外出支援を図っている。	

グループホームめぐみの丘Ⅱ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は現在は遠慮していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話を利用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに花を飾り、リビングには音楽を流すなど工夫している。	日中利用者が集うリビングには季節に応じた花を飾るほか、利用者が作成したちぎり絵を掲示するなど、明るい雰囲気である。浴室やトイレも清潔さを保つほか、廊下にも転倒の危険となるものは放置せず安全性にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士がリビングでお茶を飲んだり会話を楽しんでもらえるようにソファを置きくふうしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使われていた家具や調度品なども部屋に置いていただいている。	居室内へは、これまで使い慣れたものや愛用品の持ち込みも可能とし、配置についても本人やご家族と相談の上決定し、利用者にとって居心地の良い場所となるよう取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室などに手摺りがあり安全に利用できるよう配慮している。		